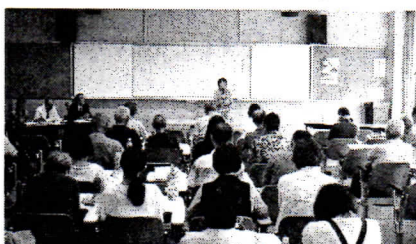


平成29年度 第1回
会員・家族研修会
開催される

平成29年度第1回会員、家族研修会は平成29年8月6日(日)午後3時から滋賀県立男女共同参画センター1階視聴覚室で開催されました。青木事務局長の開会の言葉に続き西浦会長より「この研修会は断酒の意義付けに必要なものであり、参加受講され、断酒を有意義なものにして頂きたい。体験発表と西川京子先生の講演で勉強したい」と挨拶がありました。

はじめに、副会長 北見敏子氏の体験談発表がありました。『私、子どもが4人います。女3人と男1人です。お酒は28歳から飲み始めました。長女が小学校1年の時でした。いやなことが色々あり、そして飲んだ酒は一直線にアル中に突き進んだと思います。飲み方が恨みつらみの、ただ酔いたいだけのいやな飲み方でした。1年も経たないのに、酒をきると手が震えて、酒を飲むとびたっと手の震えが無くなることを覚えました。「これはきっとアル中なんや」と思いました。アル中という症状は知っておりました。只、アル中=アルコール依存症、心の病、精神的な病と診断されたのは44歳の年でした。16年間飲んだなかで4人の子ども達、特に娘に大変酒害を与え、迷惑をかけました。「何が悪かったのか、飲んで来た自分が一番悪かったのだ」。小杉先生の診断を受けた時は、腹水がたまり黄疸も出て歩ける状態ではなく、相談員の人に抱きかかえて貰って診断を受けました。先生は「ようきたね。今までつらかったね、よう辛抱したね」とやさしく声をかけて下さいました。その言葉が私を治療に向き合わせてくれ、それ以来断酒会で酒を止め続けています。今、子どもたちの相談相手になれている事にありがたさを感じます』と話された。

この後、滋賀県でも県立精神保健福祉センター主催の家族セミナーでお世話になりました。新阿武山クリニックソーシャルワーカー、社会学博士、精神保健福祉士 西川京子先生による『アルコール依存症当事者と家族の回復について』をテーマに講演があった。冒頭でアルコール依存症に成られた本人も家族も幸せになって頂きたいのですと言葉があり、1.アルコール依存症とその回復 2.アルコール依存症の回復に必要な要件 3.アルコール問題を抱えた家族が陥っている状態 4.アルコール問題維持連鎖 5.アルコール依存症本人と家族に関する調査結果 6.アルコール依存症本人の家族の本音 7.断酒後の家族関係葛藤の背景にあるもの 8.断酒後の家族関係回復の



ためについて分かり易く話して頂いた。松岡副会長の閉会のあいさつで終了しました。参加者は64名でした。(記・西浦)